

No part of the candidate evidence in this exemplar material may be presented in an external assessment for the New Zealand Scholarship award.

# S

93002



930020

SUPERVISOR'S USE ONLY

## SCHOLARSHIP EXEMPLAR



NEW ZEALAND QUALIFICATIONS AUTHORITY  
MANA TOHU MĀTAURANGA O AOTEAROA

QUALIFY FOR THE FUTURE WORLD  
KIA NOHO TAKATŪ KI TŌ ĀMUA AO!

Tick this box if you  
have NOT written  
in this booklet

☐

### Scholarship 2021 Japanese

Time allowed: Three hours  
Total score: 24

Check that the National Student Number (NSN) on your admission slip is the same as the number at the top of this page.

There are two sections in this examination:

- Writing – Questions One and Two
- Speaking – Question Three.

The writing section takes place during the first two hours of the examination. Answer Questions One and Two in this booklet.

The speaking section takes place in the third hour of the examination. The supervisor will let you know when you are to go to the recording room, where you will receive Question Three.

If you need more room for your answer to Question One or Question Two, use the extra space provided at the back of this booklet.

Check that this booklet has pages 2–15 in the correct order and that none of these pages is blank.

**YOU MUST HAND THIS BOOKLET TO THE SUPERVISOR AT THE END OF THE EXAMINATION.**

# LISTENING PASSAGE

Listen to this conversation between Mary, a student in New Zealand studying Japanese, and her classmate Kenji, who is an international student from Japan.

Refer to the conversation in your answer to Question One on page 3.

You will hear the passage three times:

- The first time, you will hear it as a whole.
- The second and third times, you will hear it in sections, with a pause after each.
- As you listen, you may make notes in the space provided.

## Glossed vocabulary

じぶん

oneself

りかいする

to comprehend

## LISTENING NOTES

Mary

couldn't go to Japan in Japanese class this year

COVID

Home stay, konban ni ittan

Martini, bunka-jibun wa ue de nite kibun

↳ sensei kiken, shashin dake = nakama

hantou hi rikai - itte mihako (kuni ni)

5 nen bunkyo - ikite

syunkan rikai shite

↳ ofuro - onaji oyo, isho ni haina,

onsen nimo yoku iku

↳ haino no daikoku - why?

ofuro ga onsen no keiken suru ichibu

syunkyo shingitarab

↳ Christian ~~syunkyo~~

kefken = church

~~syunkyo~~ sounshiki = otera

taitei hachumonde - jūga (toshino kage)

Online shopping - hoto no iro, etc wakemaru

↳ omise ni mihitta hōga i.

Kenji

kiite

NZ seikatsu shitekedo

ikeba kana shuffu koto aru

gaikoku no koto dake igau

↳ chihou no tabako

↳ Hokkaido - ramen

ishii but tabako shite

wakaranai

↳ nezurashi banta shunkan

↳ tabako - douguai sugoi

ke wakari

jumien na tabako + shun

↳ do no gurai sugoi ke wakaranai to omou

Archer Ten

ukyo - tofuro han doko

omotta

inhan ni sandoirai to rikaiden nikan

shine asine

tekkouka doko

## QUESTION ONE

ASSESSOR'S  
USE ONLY

There is a Japanese saying 百聞は一見にしかず<sup>ひやくぶん いっけん</sup> that means 'Seeing once gives you a better understanding than hearing 100 times.' Do you agree or disagree, and why?

Consider other views, as well as those in the passage, to support your answer. Develop a structured and well-considered argument.

日本語には「百聞は一見にしかず」ということわざがあります。「100回聞くより1回見た方がよくわかる」という意味です。このことに同意するかしらないか、理由を述べて説明してください。

他の人の意見と会話で示された意見を踏まえて、自分の意見をサポートし、よく考えた内容と構成のエッセイにしてください。答えは日本語で書いてください。

Respond in Japanese.

「百聞は一見にしかず」ということわざには同意します。学校のクラスで学んだことやインターネットでどうやらやっぱしんを見ることとじっさいそのばしょに行くことは大きくかわってきます。また、じっさいそのばしょに行くことで学べるものとして、にちじょうできなしょうかんやしょうきょうについてよりふかく理解することが出来ます。さらに、これは外国にがきたた話ではありません。。

まず、「百聞は一見にしかず」がなぜじょうやうなわけかと言いますと、今ビッドのせいでホームステイや高校行くのがやっと言ったしょうきょうにいるからです。このため、マリーさんも日本語クラスで日本に行けなかったとのこと。マリーさんは五半間日本語をべんきょうしているのにまだまだいいしきれないものがあると言っています。また、まつりや日本の文化には自分の目で見てけいけんをしないをちゃんとりがいできないと言っています。たしかに、日本の文化はとてもしつこくでまつりなどはそのほかのうんいきがとてもしつこくじょうきょうとされているイベントです。なので、じっさい

日本に行くだけいけんをし、そのばいのいちぶと交  
らないとリかいできないものや気づかないものも  
あると思います。これは、本当に ~~日本文化のいちぶ~~ せ  
んせいの話しを聞いていただけ ~~で~~ ~~日本文化のいちぶ~~  
~~のせい~~ であつたり、インターネットで「しん  
やビデオ」を見てるだけ ~~で~~ ~~日本文化のいちぶ~~ には  
思いません。

また、日本のしゅうきょうはとてふくさつで  
あつたり、にちじょうてきな ~~文化~~ 文化のいちぶ  
はじつさい日本に行くだけ ~~で~~ ~~日本文化のいちぶ~~ ではなく、日  
本でじつくりとせいかつしなければならな  
いことだ"と思います。たとえば、日本では  
キリスト教を ~~しん~~ じてなくてもけっこんしきは  
教会で"することが多いです。また、これは  
ニューズーランド"でもにたようなことか"言  
えますね。ニューズーランド"ではキリス  
ト教を ~~しん~~ じてなくてもクリスマスをいわうこと  
がいはんとてきです。ほかにはイースター ~~も~~  
キリスト教 ~~かん~~ かんけいなく、いわれられます。  
日本ではほかにも、そうしきは ~~お~~ えてらで、しつ  
もろで ~~は~~ じんじかへ、とさま ~~さ~~ まな ~~点~~ 点で  
しゅうきょうとはかんけいなくしゅうきょうに問わ  
りかへ、かいは ~~は~~ イベントとつねにふれあ  
っています。これはとくにとくべつ ~~という~~  
わけ ~~で~~ ~~は~~ ではなく、 ~~に~~ にちじょうてきに ~~お~~ おこな  
われるものなので ~~じつ~~ さい日本で ~~せ~~ せいかつ  
をしなければ ~~リ~~ かいをするのがむずかしい  
文化のいちぶです。またしゅうきょう ~~だけ~~ だけ  
ではなく、おふくも日本の文化の大 ~~ち~~ ちないち

ふ、た<sup>に</sup>け<sup>て</sup>、~~は~~にちじょうできすぎ<sup>て</sup>くわしく  
りかいするにはじ<sup>っ</sup>せいけいけんしないとむずか  
しいと思われま<sup>す</sup>。お<sup>の</sup>るに<sup>ん</sup>るのか<sup>か</sup>た<sup>に</sup>  
いすぎ<sup>た</sup>と分<sup>か</sup>ら<sup>て</sup>いて<sup>も</sup>とれ<sup>か</sup>どうしてな  
かを<sup>り</sup>かいする<sup>に</sup>は<sup>に</sup>にちじょうで<sup>き</sup>に<sup>け</sup>いけ  
んしないとい<sup>け</sup>ないと思<sup>い</sup>ま<sup>す</sup>。

さらに、~~この~~「百聞は一見にしかず」とは  
外国<sup>に</sup>にか<sup>き</sup>つた<sup>こ</sup>とで<sup>は</sup>ないです。自<sup>ら</sup>の  
~~母~~母国<sup>で</sup>も<sup>り</sup>かいしてないことはいっぱいある  
と思<sup>ま</sup>す。とくに、日本<sup>で</sup>は~~お~~ち<sup>ほ</sup>うに<sup>よ</sup>  
っ<sup>て</sup>それぞれ<sup>の</sup>とく<sup>と</sup>く<sup>な</sup>て<sup>く</sup>ち<sup>やう</sup>か<sup>あ</sup>る  
こと<sup>か</sup>た<sup>い</sup>て<sup>す</sup>。た<sup>に</sup>と<sup>え</sup>ば、~~お~~お<sup>お</sup>さ<sup>か</sup>  
の<sup>あ</sup>い<sup>る</sup>ご<sup>つ</sup>の<sup>お</sup>この<sup>み</sup>や<sup>さ</sup>で<sup>あ</sup>った<sup>り</sup>、ほ  
かい<sup>ど</sup>ろ<sup>の</sup>ラ<sup>ー</sup>メル<sup>も</sup>お<sup>い</sup>しい<sup>と</sup>は<sup>知</sup>ら<sup>ず</sup>  
~~お~~ても<sup>も</sup>じ<sup>っ</sup>さい<sup>ど</sup>う<sup>い</sup>る<sup>あ</sup>じ<sup>あ</sup>い<sup>は</sup>行<sup>っ</sup>て<sup>お</sup>べ  
て<sup>み</sup>ない<sup>と</sup>分<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>も</sup>の<sup>で</sup>す。ニ<sup>ュ</sup>ー<sup>ズ</sup>ー<sup>ラ</sup>  
ソ<sup>ド</sup>で<sup>は</sup>と<sup>か</sup>い<sup>の</sup>オ<sup>ー</sup>ク<sup>ラ</sup>ソ<sup>ド</sup>に<sup>す</sup>ん<sup>で</sup>け<sup>れ</sup>  
ば<sup>い</sup>な<sup>か</sup>の<sup>の</sup>う<sup>か</sup>や<sup>小</sup>さ<sup>な</sup>~~お~~の<sup>く</sup>ら<sup>し</sup>な  
ど<sup>に</sup>は<sup>く</sup>わ<sup>し</sup>く<sup>な</sup>い<sup>の</sup>と<sup>同</sup>じ<sup>で</sup>す。こ<sup>れ</sup>は  
食<sup>べ</sup>も<sup>の</sup>た<sup>け</sup>と<sup>は</sup>か<sup>き</sup>ら<sup>ず</sup>、<sup>あ</sup>ず<sup>ら</sup>い<sup>文</sup>化  
や<sup>た</sup>て<sup>も</sup>の、し<sup>せん</sup>わ<sup>け</sup>っ<sup>き</sup>な<sup>ど</sup>も<sup>同</sup>じ<sup>で</sup>す。  
~~お~~名<sup>前</sup>や<sup>ど</sup>う<sup>い</sup>う<sup>も</sup>の<sup>か</sup>知<sup>ら</sup>ず<sup>い</sup>て<sup>も</sup>、し<sup>っ</sup>せ<sup>い</sup>  
見<sup>に</sup>行<sup>か</sup>ない<sup>と</sup>分<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>い<sup>こ</sup>と<sup>か</sup>た<sup>い</sup>て<sup>す</sup>。  
し<sup>か</sup>し<sup>ん</sup>「百聞は一見<sup>に</sup>に<sup>け</sup>ず」<sup>で</sup>す<sup>ね</sup>。  
と<sup>言</sup>う<sup>わ</sup>け<sup>で</sup>、ほ<sup>く</sup>は<sup>こ</sup>の<sup>こ</sup>と<sup>あ</sup>わ<sup>ざ</sup>に<sup>同</sup>意<sup>し</sup>  
ま<sup>す</sup>。じ<sup>っ</sup>さい<sup>け</sup>い<sup>けん</sup>に<sup>な</sup>い<sup>て</sup>分<sup>か</sup>ら<sup>な</sup>  
い<sup>も</sup>の<sup>は</sup>た<sup>く</sup>さ<sup>ん</sup>あ<sup>り</sup>、こ<sup>れ</sup>は<sup>そ</sup>の<sup>は</sup>の<sup>ど</sup>  
と<sup>く</sup>と<sup>く</sup>な<sup>る</sup>、<sup>ん</sup>い<sup>ま</sup>に<sup>よ</sup>った<sup>り</sup>、<sup>に</sup>にち<sup>じ</sup>ょう<sup>で</sup>  
な<sup>も</sup>の<sup>で</sup>あ<sup>っ</sup>た<sup>り</sup>、ま<sup>た</sup>外<sup>国</sup>と<sup>は</sup>か<sup>き</sup>ら<sup>ず</sup>内<sup>国</sup>  
でも<sup>じ</sup>ょう<sup>ぶ</sup>ん<sup>お</sup>に<sup>り</sup>え<sup>る</sup>こ<sup>と</sup>で<sup>す</sup>。

## READING TEXTS

Read the three texts on pages 6–9, and refer to them in your answer to Question Two on page 10.

### TEXT ONE: じゅんびは十分? Are you prepared?

Kenji, a Japanese international student in New Zealand, and Mary, a New Zealand student studying Japanese, are chatting online.

メアリーさん、ぼく、またはずかしいけいけんをしましたよ。

え? どうしたの?

ホストファミリーが日本のれきしについて聞いたんだけど、  
こたえられなかったんだ。ぼく、れきしがきらいで、  
あまりべんきょうしなかったから。

あ、そうなんだ。

でも、それだけじゃないよ。アイヌ人のことも上手にせつめい  
できなかったんだ。

え? アイヌ人?

むかしから北海道に住んでいる人たち。あーあ、ニュージーランドに  
来る前に、もっと日本のことをべんきょうしておいたらよかったなあ。

あ! 私もニュージーランドの文化やれきしについてべんきょうして  
おかなければならない!

え? どうして?

ワイタングにもウエリントンにも行ったことがないし、  
ニュージーランドのれきしにもきょうみがないし。いつか日本に  
りゅう学した時、日本人のしつもんにかたえられなくて、  
こまるかもしれないから。

じゃ、つぎの休みに、どこかに見学に行ってきたらどう？  
ずっと家にいても、つまらないでしょ？

そうだね。私、かぞくと話して、どこかにつれて行ってもらうことに  
する。

ウエリントンはどう？ あそこには大きい  
はくぶつかんがあつて、ニュージーランドの  
文化やれきしがべんきょうできるよ。じつは、  
ぼくも見に行ったんだ。とてもおもしろかったよ  
これ、ウエリントンに行った時のしゃしん。

グッド・アイデア！ 今日家にかえったら、りょうしんに話してみる。  
ありがとう、けんじくん。

どういたしまして。ウエリントンからかえったら、ぼくがメアリーさんに  
ニュージーランドについてテストをしてあげる。おちたら、もう友だち  
じゃなくなるよ。

ええ!?

TEXT TWO: 海外けいけん (井の中の蛙) The big OE (a frog at the bottom of the well)

This is an advertisement placed in a magazine, by ABC Travel.

Glossed vocabulary

じぶん oneself  
やくにたつ useful

井戸 well  
カエル frog

高校生・大学生のみなさん

高校・大学をそつぎょうした後で何をするか、もうかんがえましたか。まだなら、外国に海外けいけん (OE) をしに行きませんか。

ニュージーランドは小さい島国です。だから、わかくてじゆうな時間がある時に、ひろいせかいに出て、ニュージーランドではできないことにチャレンジしてみたいと思う人がたくさんいます。海外に出て、色々なけいけんをしたら、じぶんの国について何を知らないか分かることがあるし、ものの見方がかわることもあります。1年か2年外国でせいかつしてみるの、しょうらいどこで何をするかかんがえる時に、やくにたつはずです。

日本では、よく「井の中の蛙、大海を知らず」と言います。そのいみは、「小さい井戸に住んでいるカエルは、大きい海 (= 井戸の外の世界) を知らない」です。みなさんは、「井の中の蛙」になりたいですか。大海を知りたいですか。

ABCトラベルは、みなさんがどこの国にいても、24時間のサポートができます。みなさんも、私たちといっしょに大海に出て、OEをしてみませんか。





### TEXT THREE: 私たちができること What we can do

This blog was written by a Japanese person living in New Zealand.

#### Glossed vocabulary

けいざい	economy	たすける	to support
ツアー	tour	レベル	level
じぶん	oneself		

かんこうぎょうはニュージーランドの大せつなさんぎょうだ。ふつうなら、せかいの国々からかんこうきゃくが1年に4百万人ぐらい来る。でも、きょ年は外国人が来られなくて、ニュージーランドのけいざいに大きいえいきょうが出ている。ツアー会社や、かんこうちのホテルやレストランは、おきゃくさんが少なくなって、とてもこまっているし、しごとをなくした人もたくさんいる。では、私たちはどうしたらいいだろうか。何ができるだろうか。

私は休みに日本に行けなくなったので、ハイキング・ツアーをよやくして、ニュージーランドで山のぼりをすることにした。その時は、じぶんの休みについてしかかんがえていなかった。でも、ツアー会社がメールに「私たちのさんぎょうをたすけてくれて、ありがとうございます」と書いたのを読んで、「ニュージーランドのけいざいをよくするために、私にもできることがある」と思った。山のぼりをした後で、色々しらべてみたら、ツアーをいつもより安くしている会社がたくさんあった。

ニュージーランドに住んでいる人たちにツアーをよやくしてほしいからだ。

私たち1人1人がニュージーランドのけいざいのためにできることは多くないかもしれない。でも、外国からのかんこうきゃくがいつものレベルになるまで、海外に行かないで、ニュージーランドでりょこうすることはできると思う。休みがあつたら、みなさんもニュージーランドの色々なかんこうちにあそびに出かけませんか。

## QUESTION TWO

ASSESSOR'S  
USE ONLY

In 1984, a New Zealand tourism advertising campaign with the slogan *Don't leave town till you've seen the country* was launched. It featured a young New Zealander visiting different countries of the world, unable to answer questions about his own country. Here are two screenshots:



With reference to the reading texts, explain the meaning and relevance of the slogan, and explore the ideas it expresses. What are the advantages of going overseas *before* you have seen your own country? Which do you prefer, and why?

Consider other views, as well as those in the texts, to support your answer. Develop a structured and well-considered argument.

ツーリズム・ニュージーランドは1984年に、世界各地を訪れた時に自国のニュージーランドについての質問に答えられない若者を描いた、「自国を見るまで町を離れるな」というテーマのキャンペーンを始めました。読み物を参照して、このスローガンの意味と関連性を説明し、その着想を検討してください。一方、自国を見る前に海外に行くことにはどんな利点がありますか。どちらがいいと思うか、その理由は何かを述べてください。

他の人の意見と読み物で示された意見を踏まえて、自分の意見をサポートし、よく考えた内容と構成のエッセイにしてください。答えは英語かマオリ語で書いてください。

Respond in **English or te reo Māori**.

"Don't leave town till you've seen the country" is explicit in its meaning that it is advantageous for one to understand their own country before going off to explore outside of your comfort zone. This is a slogan that increases in relevance due to the modern age enabling for easy & travel internationally with the help of the various technology ~~and~~ available. Indeed, when in a

foreign country, as much as you would be interested in their culture, the people of that country will be interested in you. And what if you couldn't meet their expectations of knowledge? Would that not be plainly embarrassing? Further, travelling domestically is not only beneficial for yourself but also for the country as a whole, thus supporting domestic travel rather than overseas travel. Lastly, however, it can also be argued that to know the greater context of the world will help attain a better understanding of yourself as well.

Firstly, as the 1984 New Zealand Tourism ad also points to, it is plainly embarrassing when you cannot meet expectations of knowledge that people expect of your home country. Both Kenji and Mary from text One support this. Kenji explicitly states that he experienced something embarrassing because he couldn't answer questions about Japanese history - which he reasons to be because he hates history and didn't study it much - ~~like~~ such as the "Ainu" people who are said to have lived in Hokkaido a long time ago. He overtly expresses his regret of not having studied more about Japan before coming to NZ. ~~Mary~~ Indeed, in Japan, history as a subject teaches all history from European, Japanese to the first human on earth. This makes it difficult to file only knowledge about Japanese history. Comparatively, NZ may have an advantage because Māori culture is regularly embedded in the childhood education scheme. However, Mary also learns from Kenji's experience and explains that she hasn't been to Waitangi or Wellington and so knows little about Māori NZ culture history. It is

interesting then that Kenji says he has been to Wellington and the museum there and proposes that he tests Mary on this topic. The fact that Kenji knows more than Mary and similarly in the 1900s advertisement, the people of New York and Paris knew more about NZ, shows that, indeed, people tend to explore the outside world, and harbour a more interest in other cultures, countries and histories rather than their own. This proves the legitimacy of the slogan and its importance in advising that people should explore their own countries before exploring the outside world."

Moreover, domestic travel is actually beneficial for the country as a whole as well as for the individual in understanding and experiencing their own culture. This is because domestic travel allows for increased awareness of their own culture and a better economy as there would be greater economic activity. This is particularly important now because of the negative effects COVID-19 had on our and other economies. Test Three supports this in claiming that usually, there would be around 40,000 tourists coming to NZ, thus it is a major component of the economy. Therefore, having lost this, domestic travel can make up for it somewhat. With our ability to ~~get~~ leave the country limited, domestic travel becomes more important in supporting the economy. To support this, tourism

Extra space if required.

Write the question number(s) if applicable.

ASSESSOR'S  
USE ONLYQUESTION  
NUMBER

Q2 - Companies are said to be reducing their prices to foster economic growth. In an economy the consumption of average households make up the largest sector contributing to economic growth. Therefore, the help of each and every individual taking up domestic travel is likely to greatly benefit the economy as a whole. Text three touches on this by stating that individually, we may not be a large factor in the whole of the economy but ~~can~~ taking up domestic tourism will help support the economy as something we can do. Therefore, domestic travel not only helps foster your knowledge and experience in NZ, but ~~travels~~ the economy of NZ as a whole."

Lastly, as an alternative opinion to the slogan, it may be that upon going overseas, understanding the greater context of the world that one can find the true meaning<sup>and importance</sup> of their own home country. ~~and~~ Text two uses an old Japanese saying that translates to "a frog in a well won't know the great sea". This is to say that the frog believes the well is its world and all there is to know. However, in reality, there is a large ocean outside that holds many more unknown mysteries and exciting tales. This argument is made admitting that going overseas may mean that they realize

Extra space if required.

Write the question number(s) if applicable.

ASSESSOR'S  
USE ONLYQUESTION  
NUMBER

they don't know anything about their own country, which is a point made by Test One as to why they should <sup>not</sup> go overseas and travel domestically first. This text shows that there is an importance in coming upon this realization of ignorance rather than being told so from the beginning. Indeed, it is as the other Japanese saying goes, "one look is better than a hundred hearings"; one must actually experience it to know it. Moreover, the text also supports the argument advocating for travelling a lot while young and free. It is true that travelling domestically, then going overseas is a long hardship that will require patience and money which may be avoided if the ABC travel

## Scholarship Exemplar 2021

Subject	Japanese		Standard	93002	Total score	19
Q	Grade score	Annotation				
1	6	The candidate integrated their opinion into their response for both essays. In their Japanese response they did not refer to all aspects of the text but interpreted the stimulus material overall. In their English essay they explained the stimulus material, and their examples were evaluated but did not necessarily draw implications. They were able to explain their ideas in a convincing and clear way and fully answered the questions.				
2	6					
3	7					